

<国際金融パネル>

FX 証拠金取引の実際と課題

慶應義塾大学 池尾和人

<主旨>

近年の円安傾向を追い風に、日本の FX 証拠金取引の取引高が飛躍的に拡大している。

個人投資家による FX 投資については日本が最も盛んな国であり、証拠金取引によって発生する資金フローが東京外為市場への流動性供給源として大きな役割を果たしていることなどを踏まえると、日本の FX 証拠金取引にはアカデミックにも大きな関心が寄せられてしかるべきである。

そこで、本パネルでは、株式や投資信託と並んで個人投資家の主要な投資先となっている FX 証拠金取引をテーマとして取り上げる。

まず各パネリストから、FX 証拠金取引の仕組み、市場拡大の歴史、取引規制、インターバンク外為市場との関係、マクロ経済への影響、個人投資家の投資行動、ロスカット規制の効果などについて報告を行っていただく。その後、パネル討論に移り、①個人投資家の視点、②FX 取引業者の視点、③為替やマクロ経済の視点から、FX 証拠金取引が抱える課題と目指すべき方向性について議論を行っていただく。

このうち①をめぐるのは、投資家保護を図りつつ、取引の活性化を妨げない最適な規制・制度設計のあり方や投資教育が論点になろう。他方、②については、近年スプレッド競争が激化しており、その結果としての低収益化が倒産リスクの増大につながって、市場の安定性にも悪影響を及ぼしかねないことが議論の中心となろう。

最後に、③では、日本の個人投資家の投資行動は為替レートやマクロ経済にどのようなインパクトを持っているのかを議論していきたい。取引高が高まっている現在、日本の個人投資家の行動は大きな注目を集めている。

パネリストには、FX 証拠金取引について高い見識を示している論者として山崎哲夫氏（一般社団法人金融先物取引業協会）、大西知生氏（ドイツ証券）、井上広隆氏（日本銀行）、岩壺健太郎氏（神戸大学）を迎え、池尾和人が司会進行を行う予定である。